

共学

近江兄弟社高等学校

かつて琵琶湖東岸に築かれた安土城。その西、数キロメートルの八幡山の麓に開かれた城下町には、江戸時代に朝鮮からの通信使が通った道が残る。「近江商人」発祥の地であり、我が国の商社をはじめとする一部上場企業の多くが、その流れをくんでいる。東海道本線が開通すると「近江八幡」の駅ができた。

一九〇五年、この地にアメリカのキリスト教青年会(YMCA)から、ウィリアム・M・ヴォーリズが伝道師として派遣され来日。英語教員として生徒たちに慕われ、

聖書の教えを広める。その後、建築事業を通じて伝道をつづけるための経済的基盤を確立し、全国各地に「ヴォーリス建築」を残した。



校内に残るヴォーリス建築

一九二二年、ヴォーリズは妻の一柳満喜子と共に幼稚園を開園、三三年には女学校も開校した。四七年に小・中学校、四八年に高等学校を設立。五一年には「学校法人近江兄弟社学園」を設立して総合学園となった。二〇一五年に「学校法人ヴォーリス学園」に法人名を変更し現在に至る。世界中に十八の姉妹校・交流校がある。

イエスを模範とする人間に

田園の向こうの安土城址の丘を望む場所に、近江兄弟社高等学校はある。

ヴォーリス夫妻らがキリスト教を中心とした精神で創立した学校なので、建学の精神も「イエス・キリストを模範とする人間教育」である。「Brotherhood(兄

弟愛)は隣人と

と訳したりしますが、男女を問わずお互いにかげがえのない存在と考えます。そして『地の塩・世の光』として、自分のためだけでなく社会や人のために

何ができるかを考え、奉仕の心と正義感を持って行動できる人間に成長してほしいと考えています」と副校長の谷口毅先生は話す。

『地の塩・世の光』は聖書のこゝとばで、「汚れを清め、腐敗を防ぎ、人の役に立つ」ことを意味する。そういう生き方や働き方を、自分らしさとし、見失わないようにという教えである。

「昔から仏教の盛んな土地柄ですけれど、近江商人の『三方よし』の考え方や新しいものに挑戦して



少人数で行うICCの英語の授業

いく姿勢は、キリスト教にも通じます。いまでは県内全域から、中高合わせて一六四〇人の生徒が通ってきています。人口八万人の田舎町にしては、驚異的な数字ですよね」と谷口先生。

大学との結びつきも強くて、高大連携先は十六校、毎年一〇〇人以上が指定校推薦で進学するという。部活動に没頭する生徒が多い背景には、そうした安心感もありそう

だ。普通科には「アーツサイエンスクラス(ASC)」「グローバルクラス(GLC)」「ヒューマンネイチャークラス(HNC)」の三コースがあり、HNCは単位制課程だ。このほかに「国際コミュニケーションクラス(ICC)」があり、英語を強化するほか第二外国語(中国語・韓国語)を選択して習得できる。自分の強みを生かすために、さまざまな工夫・配慮が凝らされている。

かけがえのない高校生活

今春、高校を卒業する帰国生に

所在地：〒523-0851 滋賀県近江八幡市市井町177
 TEL：0748-32-4444 (代) / FAX：0748-32-3979
 URL：https://www.vories.ac.jp/SeniorHigh/
 交通：JR・近江鉄道「近江八幡」駅からバス10分
 * スクールバス16コース

生徒数：男子=563人、女子=637人
 帰国生数：4人
 教職員数：専任 80人（うち外国人 3人）
 非常勤 25人

帰国生入試の出願資格：

海外在留期間が1年以上で、帰国後の期間が1年以内の者。ただし、長期間在留者については別途考慮する。編入は、高2の3月までに手続き完了のこと。

※応募に先立ち要相談。専願に限る。

話を聞いてみた。中一から四年間、アメリカのアリゾナ州に住んだAさんは、高二から編入した。

「滋賀県の高校では貴重な、帰国子女に門戸を開いてくれている学校であることと、複数のネイティブスピーカーの先生が常駐していることが、この学校を選んだポイントです。海外校とのかわりや、海外留学生との交流が多いと聞いていましたし……」と話す。

中二の夏から二年半、アメリカのノースカロライナ州に住んでいたBさんも高二からの編入。

「友達に通っていたので学校の名前は知ってましたけど、帰国生

を受け入れていることは知らなくて、『帰国子女のための学校便覧』を見て初めて興味を持ちました」と微笑んだ。

ふたりとも高二のはじめから丸二年間在学した。「入ってすぐのところ、先生がたが『困っていることはないか』と聞いてくださったり、いろいろサポートをしてくださったりして、とても助かりました」とBさん。Aさんも「職員室の雰囲気アットホームで心地がいい」と話す。

Aさんはまた「はじめはアメリカの学校とのギャップに減入ることも多々ありました。でも、クラスが自由で明るい雰囲気……『陽気』ということばがぴったりな友達と戯れるひとときが、大好きでした！」と言う。

「みんなより一年遅れて部活に参加するので、なじめるかどうかなどの不安がありましたが入りましたが、入ってみると違うコースや学年の人とのつながりもできて、部活で過ごした時間はかけがいのないものとなりました」とBさん。



来校した留学生を囲んで、日本文化を紹介・説明

いつも見守られている

Aさんは将来、航空関係の仕事に就きたいそうだ。「アメリカでの生活経験や、近江兄弟社高校I・Cで身につけた英語力を生かせる仕事だと思えますから」と言う。

A・S・Cで学んだBさんは、薬剤師を目指す。帰国の一年前からコロナ禍に翻弄され続けたという。

「薬が私たちの生活において、なくてはならない存在になっているということをもっと実感しました。だから、薬を通して人々の健康を守りたいと思うようになりました」

Bさんはまた、「この学校だと、不安に思っていた高校生活も、安心して楽しく送ることができま

す。また海外出身の先生もいらつしやいますから、海外で身につけた英語力を維持したいと考えているかたにお勧めです！」と話してくれた。

Aさんはア



取材に応じてくれた帰国生たち

リカにいた四年間、補習授業校には通っていない。それでも日々の努力で見事卒業の単位を取りきった。

「滋賀県に帰ってくるなら、この学校で間違いのないと思います。先生たちもノリがよく、日本の学校への編入に不安いっぱいの帰国子女たちにもってこいです！」(笑)」と言う。

卒業後は、日本全国の都市に行っても『ヴォーリズ建築』があり、見守られているような気持ちになるのだろう。そして「自分の持ち味を忘れないようにね」と励まされるのである。

(取材・文 小山和智)